

「想い」のある投票をしよう

串間市 清山 美咲

私たち若者にとって、選挙や政治の話はとても遠い世界の話です。選挙が近づいてきても、友達同士で選挙の話をすることはありませんし、投票に行く、行かないの話でさえしません。政治の話ももちろんしません。私は現在、地域おこし協力隊の仕事をしていますが、地元の友達と地域の話をすることはありません。

歴史的に選挙が大事なことも知っています。投票に行くのがとても大事な行為であることも知っています。ただ、「私ひとりが選挙に行っても、どうせ変わることはない」という諦めの気持ちが選挙や政治への無関心につながり、「選挙に行きましょう」という呼びかけが私たちの心に届かなくなっている。というのが、今の現状のように感じます。

でも、希望がない訳ではありません。私は地域おこし協力隊の仕事をしながら、「私たち一人ひとりの行動が地域に好循環を生む」という小さな希望に触れてきました。

例えば、先日しめ縄づくりに参加した際には、「地域の伝統的な文化を守りたい」「地域コミュニティを大切にしたい」という想いが伝統文化の継承につながっていることを学びました。その他にも、高校生が地域創生のために考えたアイデアを実現するために、NPOや企業、行政など様々な団体が協働して高校生の想いを実現するといった取り組みにも参加してきました。

このどちらにも共通することは、「想い」には誰かを動かす力があるということです。

地域づくりの仕事は、この「想い」がとても大事だと思っています。地域づくりという何が答えか分からない取り組みの中で、私たちが行動するためには「想い」の力がとても重要になります。

一人ひとりの声を聴いてみると、私の周りには素敵な想いを持った方々が沢山います。私は、「想い」を持った方々と一緒に行動したり、学び合ったりする中で、自身の活動を深めることができるとともに、そこに新しい未来を感じることが出来ます。

私たち若者が望んでいる社会とはどのようなものでしょうか。それは、「私たち一人ひとりが自分らしく共にありたい未来を創造できる社会」です。私たちは誰かがつくった枠組みの中で生きていくのではなく、自分たちが想いを持って参加した社会に生きていきたいと思っています。そのために、私は、お互いの考え方や想いを尊重し合う対話をしていきながら、対立ではなく、共に実践していく取り組みを少しずつ増やしていきたいと思っています。

私たちは無関心をやめて、望ましい未来と一緒に創っていくことができる新しいリーダーを選んでいく必要があります。新しいリーダーとは、私たちの想いを聞いてくれること、自分の想いを語ってくれること、お互いに対話する場を作ってくれること、未来を共に創っていく実践をしてくれることができるリーダーです。私たちは望ましい未来に向けて私たちの想いに共感してくれるリーダーを選んでいく必要があると思います。そのために、「想いのある投票」をしていくことが求められます。

私たちができる最初の一步は何でしょうか。何も分からないままとりあえず選挙に行くことでしょうか。望ましい未来に向けて、また、望ましいリーダーを選んでいくために、大切なことは「よく聴くこと」であると思います。

選挙に当たっては、候補者の論理的な政策論だけではなく、まちや未来への想いをきちんと聴き、共感できるかどうかを判断すること。日常においては、政治家や行政がどのようなことを語り、どのように考えているかをよく聴いて、私たちの未来はどうなっていくのかを感じていくことが重要です。

私たちの世代は、聴くことが苦手です。でも、聴くことが「想い」を知ることになり、そこに共感が生まれて、より良い一票につながるのではないかと思います。みなさん、もっと聴いていきましょう。もっと対話に参加しましょう。もっと「想いのある一票」を入れましょう。私たちの未来のために。